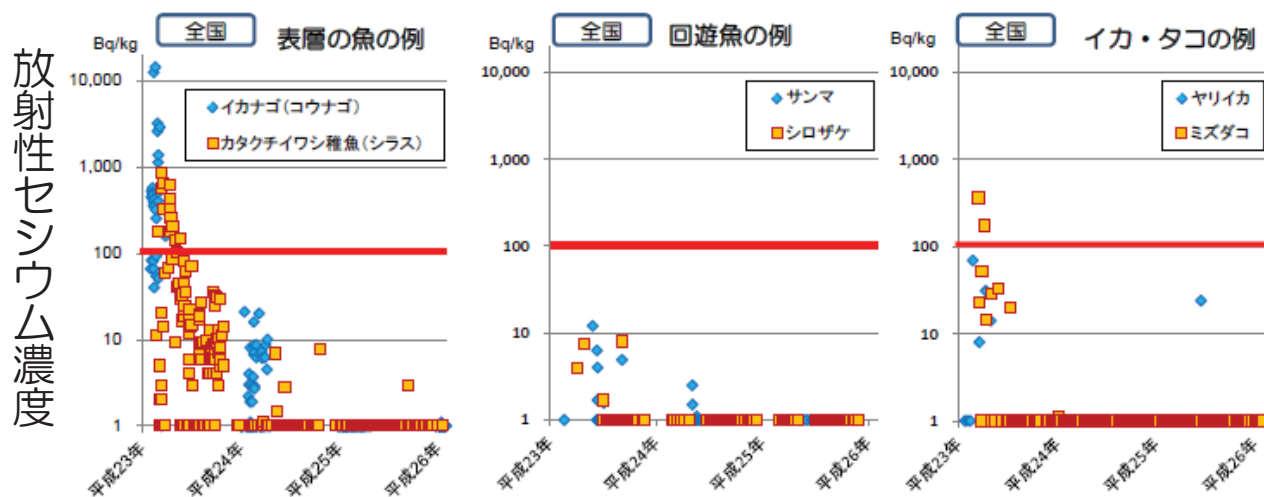


魚種ごとの傾向（全国）①

- 表層魚：時間の経過とともに基準値を下回る
- 回遊性魚種：当初から全て100 Bq/kg以下
- イカ・タコ類：時間経過とともに基準値以下へ

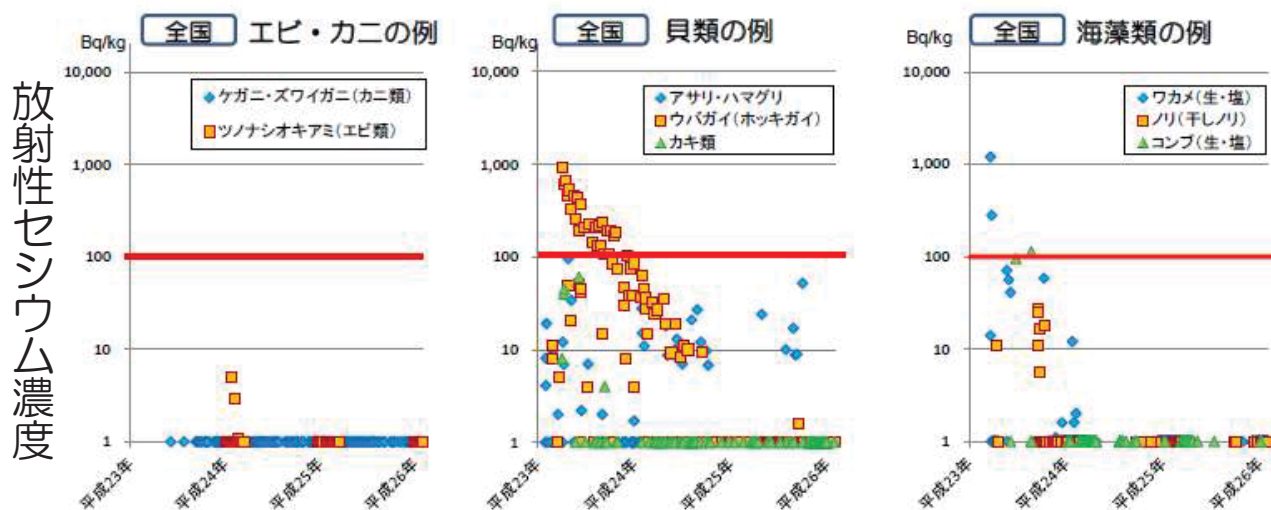


(注) 平成23年3月24日～平成26年3月31日までの検査結果を水産庁にて集計

63

魚種ごとの傾向（全国）②

- エビ・カニ類、貝類や海藻類：時間経過とともに基準値以下へ



(注) 平成23年3月24日～平成26年3月31日までの検査結果を水産庁にて集計。

64

野生鳥獣の汚染測定

2014年7月14日
福島県自然保護課

1. 今回の測定結果
イノシシ：14頭中12頭
ツキノワグマ：8頭中3頭
が基準値超過
検体総数23個体

2. 注意喚起
イノシシ：県内全域
ツキノワグマ：中通り・会津
キジ：県内全域
ヤマドリ：県内全域
カルガモ：県内全域
マガモ：県北・いわき
コガモ：県南・南会津
ノウサギ：県内全域
上記以外：慎重に

○はH24.4.1以降調査で、基準値である100Bq/Kgを超えたもの
△はH24.3.31以前調査で、暫定規制値である500Bq/Kgを超えたもの

鳥獣の種類	規制値(基準値)超過の個体が確認された市町村	
イノシシ	今回	二本松市○、本宮市○、郡山市○、須賀川市○、三春町○、磐梯町○、猪苗代町○
	前回まで	福島市○△、二本松市○△、伊達市○△、本宮市○、桑折町○、国見町○、川俣町○△、大玉村○、郡山市○△、須賀川市○△、田村市○△、天栄村△、石川町○、平田村△、白河市○△、棚倉町△、塙町○、矢祭町△、西郷村○△、鮫川村○△、喜多方市○、猪苗代町○、相馬市○△、南相馬市○△、広野町○、楡葉町○、川内村△、飯館村○、いわき市○△
ツキノワグマ	今回	郡山市○、猪苗代町○
	前回まで	福島市○△、二本松市○△、本宮市○、国見町○、大玉村○、郡山市○、須賀川市○、白河市○、西郷村○△、会津若松市○、北塩原村○、磐梯町○、猪苗代町○、昭和村○、会津美里町○、下郷町○、南会津町○
キジ	今回	—
	前回まで	伊達市○、田村市○、相馬市○、南相馬市○
ヤマドリ	今回	—
	前回まで	福島市○、二本松市○、伊達市○、国見町○、川俣町○、郡山市○、塙町○、いわき市(久之浜町)○△
カルガモ	今回	—
	前回まで	伊達市○、南相馬市○、いわき市○
マガモ	今回	—
	前回まで	福島市○、いわき市○
コガモ	今回	—
	前回まで	なし
ニホンジカ	今回	なし
	前回まで	西郷村△、檜枝岐村○
ノウサギ	今回	—
	前回まで	伊達市○、川俣町△、矢吹町○

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/75554.pdf>

65

結局、どんな食材に
セシウムは多く含ま
れているんですか



農林水産物に含まれる濃度水準

- 農業生産現場における取組等により、農畜産物に含まれる放射性セシウム濃度の水準は低くなっており、23年度末までの結果と比べ、基準超過の比率も大幅に低下。
- きのこ・山菜類、水産物では、基準値を超過したものがみられるが、超過割合は減少。

農林水産物の放射性セシウム検査結果(17都県)(平成26年3月31日現在^{注1})

品目	～23年度末 超過割合 ^{注2}	24年度 超過割合	25年度			基準値超過品目 上段:25年度、下段カッコ:24年度
			超過割合	検査点数	基準値超過点数	
米 ^{注3}	2.2 %	0.0008 %	0.0003 %	1,099万	28	米
麦	4.8 %	0 %	0 %	592	0	—
豆 類	2.3 %	1.1 %	0.4 %	5,163 ^{注4}	21 ^{注4}	大豆 (大豆、小豆)
野 菜 類	3.0 %	0.03 %	0 %	19,657	0	— (ホウレンソウ ^{注5} 、レンコン、クワイ等5品目)
果 実 類	7.7 %	0.3 %	0 %	4,243	0	— (ウメ、ブルーベリー、クリ、ユズ、ミカン)
茶	8.6 %	1.5 %	0 %	447	0	— (茶)
その他地域特産物	3.2 %	0.5 %	0 %	1,618	0	— (そば)
原 乳	0.4 %	0 %	0 %	2,040	0	—
肉・卵 (野生鳥獣肉除く)	1.3 %	0.003 %	0 %	194,945	0	— (牛肉、豚肉、馬肉)
きのこ・山菜類	20 %	9.2 %	2.6 %	7,581	194	野生きのこ、こしあぶら等15品目 (原木しいたけ、たけのこ等 27品目)
水 産 物	17 %	5.6 %	1.5 %	20,695	302	アイナメ、シロメバル、スズキ、ヤマメ等35品目 (アイナメ、カレイ、ヤマメ等56品目)
農林水産物計	3.4 %	0.02 %	0.005 %	1,124万	545	～23年度末検査総数:139,376点 24年度検査総数:1,059万点

注1: 厚生労働省及び自治体等が公表したデータに基づき作成。「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」(原子力災害対策本部決定)で対象自治体としている17都県。ただし、水産物については全国を集計。

注2: 23年度末までの検査において下の基準値を超過した割合。

基準値(平成24年4月～): 100 Bq/kg(茶については浸出液で 10 Bq/kg、原乳については50 Bq/kg。経過措置として、米と牛肉については平成24年9月30日、大豆については平成24年12月31日まで500 Bq/kg(暫定規制値))。

なお、23年度末までの茶は、荒茶や製茶の状態では500 Bq/kg超のデータを集計(飲用に供する状態での放射性セシウム濃度は荒茶の概ね1/50)。超過が見られた品目・地域については、出荷制限や自粛などが行われている。

注3: 23年度産米は、福島県で行った緊急調査の点数23,247点を含む。24年度産米は、福島県及び宮城県の一部地域で行った全袋検査の点数1,037万点を含む。

注4: 25年度に検査された24年度産の大豆については、24年度の結果に含めている。

注5: 超過は1点のみで、汚染した被覆資材の使用による 交差汚染の可能性。

67

見えてきた傾向

- 今なお、基準値以上のセシウムが検出されるのは、**山菜、野生のきのこ、野生動物、海水魚(底魚)、川魚(天然)**など
- 自家栽培であっても、野菜からはまず検出されない。



実際には皮をむいたり、ゆでたり、調理してたべることになります

実際の食事に含まれるセシウムは



厚労省による調査

- 9地域（北海道、岩手県、福島県、栃木県、茨城県、埼玉県、新潟県、大阪府、高知県）
- 平成24年3-5月
- 一般家庭から陰膳試料収集
- 地域ごとに、乳児（1歳未満）、幼児（1～6歳）、小児（7～12歳）、青少年（13～18歳）、一般成人（19～60歳）、高齢者（60歳超の退職者）の6区分の男女3名ずつ及び妊婦3名、合計39名の一日分食事
- 福島県は、各区分の3試料を、浜通り、中通り、会津の3地域からの1名分ずつ
- 試料中の放射性セシウム(Cs-134、Cs-137)及びK-40を分析し、放射性物質の一日摂取量（Bq/man/day）及びこの食事を1年間摂取し続けた時の預託実効線量(mSv/y)を評価